

# ホホバ 頒布会便り



発行  
毎月一回  
(株)アイリス

二月に入り、一年で一番寒い季節となりました。寒さと空気の乾燥で、お肌や髪の毛の潤いが奪われてしまうこの時季、乾燥したお肌はダメージを受けやすく、老化が進む原因に。保湿を徹底してお肌の潤いを守りましょう。

## 冬は乾燥で お肌が敏感に

寒くなってくると、手がカサカサになって、グツと年を取った様に見える事はありませんか？

これはお顔も同じで、冬場、気温が下がってくると、お肌の血流が低下して潤いが不足します。すると、お肌は弾力を失ってしま



うので、ちょっとした刺激にも敏感になってしまい、洗顔の摩擦やマスクの刺激が肌トラブルの原因になる事も。

## 体が冷えると 肌が乾燥する!?

お肌の弾力を守るには、まず乾燥から守る事が大切。

冬は、空気の乾燥に加えて、冷

えから来る血流の低下でお肌が潤いを保つことができなくなってしまうから、体の冷えにも注意して、たっぷり水分と潤いを、お手入れで補ってあげる事が重要です。

## お風呂上りの 乾燥にご注意を

お風呂上りは、お肌が潤って柔らかく見えますが、お風呂から出た途端に、急激に乾燥していきますから、お風呂上がりや床に就く頃に、手足や向こうずね・わき腹や背中等に、乾燥性の痒みが出る事があります。

夜、布団に入ると足やわき腹が痒い、という方は、お風呂上がり乾燥の原因かもしれません。

たっぷりのホホバでお手入れを。

# 冬の徹底保湿で 乾燥からお肌と髪を守る

気温が下がり、寒さで体が冷えると血行が悪くなり、お肌の水分量も低下してしまいますから、体もお肌もどんどん乾燥が進んでしまいます。

潤いを保って乾燥からお肌と髪を守るために、徹底保湿のお手入れでこの冬を乗り切りましょう。

ホホバで徹底保湿して  
冬の素肌を守るには・・・

## ■洗顔は体温より 少しぬるめが目安

熱いお湯でお肌を洗うと、必要な皮脂まで落とし過ぎてしまう、という事はよく知られています。

しかし、逆に冷たい水も冬場はよくありません。

冷たい水で肌表面の温度が下がり、血流が低下してしまうので、お肌

✓ 必要な栄養が運ばれず、乾燥が進んでしまいます。

体温より少し低めのぬるま湯で、34〜36℃くらいが一番お肌を刺激せずに優しく洗えます。

洗顔はお肌を擦らず、泡でお顔を包むようにして優しく洗い、すぎを念入りに行いましょう。

洗顔後のお手入れには、アロエローションをたっぷり手のひらにとり、手を合わせて温めてから手のひら全体でお顔を包み込む様



✓ にし、お肌に押し込む様に抑えてから、ホホバを優しく伸ばします。乾燥が気になる目元口元には、たっぷり重ね付けをしましょう。手指の荒れにも、手洗い後はたっぷりのホホバで指先までしっかり保湿を忘れずに。

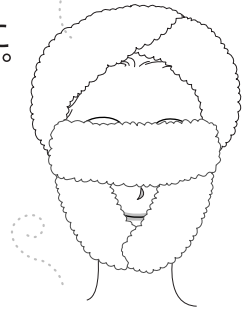
## 冬の保湿対策はいつもの お手入れにプラスして

特に冷え込みの厳しい二月は、乾燥が進む季節でもありますから、いつものお手入れにプラスして、徹底保湿を心掛けましょう。↖

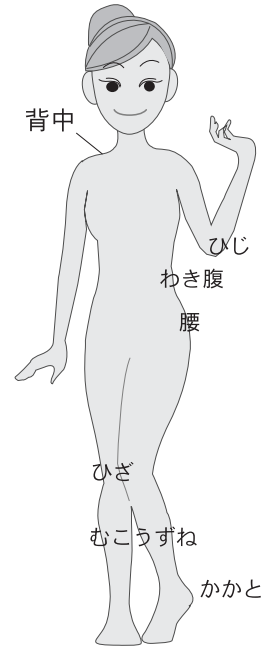
▼ ■蒸しタオルパック

お風呂タイムを利用して、お肌や髪の乾燥対策に、ホホバ蒸しタオルパックをしてみましよう。

お顔や髪にたっぷりホホバを付けて、湯船に浸かっている間3〜5分程、蒸しタオルで覆っておくだけで肌がふっくらモチモチに。



▼ ■体の痒みも保湿で軽減



お風呂上がりはお肌の水分が急激に蒸発して乾燥が進み、皮脂の分泌の少ない部分に痒みが出る事がありますから、タオルで水滴を拭き取ったら、すぐに背中・わき腹・むこうずね等の痒みが出やす

▼ い部分や、ひじ・ひざ・かかと等の角質が硬くなり易い部分は、ホホバをたっぷり伸ばしましょう。

▼ ■髪の傷み・静電気に

いつも通りのシャンプー・トリートメントをした後、タオルドライした髪に、ホホバをつけた手で手ぐしを通す様にして、毛先にはつまむ様につけましょう。

髪の傷みを防ぎ、乾燥による静電気からも髪を守ってくれます。

ホホバが固まるのは天然自然の証です。



Q

ホホバを使い始めてから、肌が乾燥せず、柔らかくなったような気がして気にいっていますが、朝のお手入れの時に、固まってしまうので瓶から出なくなってしまう事があります。固まったら、温めて溶かして使う様にしていますが、何度も温めたりして、悪くなったりしないか心配です。このまま使っても大丈夫ですか？

A

ご愛用ありがとうございます。ご指摘の通りホホバ抽出液は、約7℃以下になると固まる性質があり、温めるとすぐに溶け出します。冷えて固まったものを何度温めても、品質には全く問題ありません。天然の純粋なもの故にご不便をお掛けしますが、冬場は暖かいお部屋に置く等してご利用くださいませ。